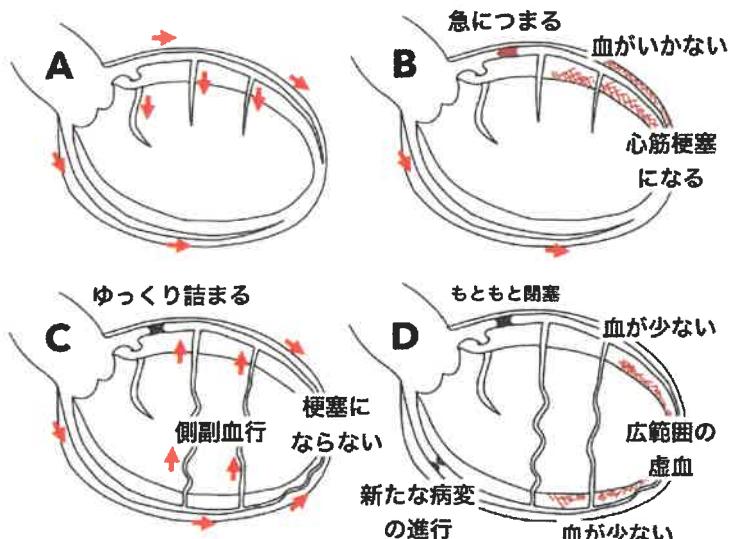


(A) 正常ではそれぞれの冠動脈は異なる心筋を養っています。

(B) 冠動脈が急につまるとその先に血がいかず、心筋梗塞になります。

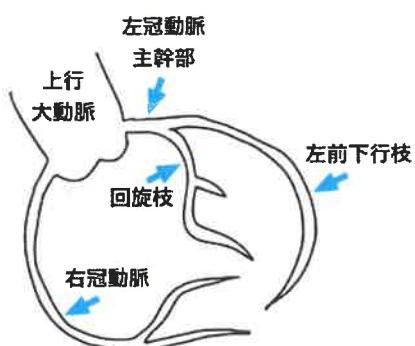
(C) ゆっくりと詰まると「側副血行」が伸びて血の巡りを改善し、梗塞になりませんが、運動時などは血が足りません。

(D) 側副血行の大元に新たな病変ができると、広い範囲の血が足りなくなります。



# 心臓血管外科★健康講座

冠動脈は心臓を養う動脈です。冠動脈が狭くなり栄養や酸素が不足すると、別の血管が生えて心臓を救います。しかし急に閉塞するとそれが間に合わず心筋梗塞になります。



岩手県立中央病院心臓血管外科では身近な医療情報を解説した健康講座を県民の皆さんに提供します。第36号は「冠動脈と心筋」です。

心臓は1日およそ10万回拍動しています。この生命の源を養っているのが冠動脈です。冠動脈は左右2本あり、左冠動脈のほうが大きく主に左心室の大半を養い、右冠動脈は右心室と左心室の下壁を養います。左冠動脈の根本は1本（主幹部）ですが、その後2cmほどで2つに分かれ、左前下行枝と回旋枝になります。

冠動脈の枝は、正常ではそれぞれ別々の心筋を養っています。しかし、どこか冠動脈に狭い



## 心臓血管外科★健康講座

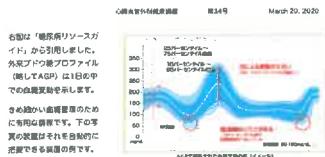
喫煙者はどんどん減っています。1968年には日本人男性の喫煙率は83.7%でしたが、2018年には27.8%まで減少、約50年で56ポイント減りました。

岩手県立中央病院心臓血管外科では、身近な医療情報を解説した健康講座を県民の皆さんに提供します。第1号は喫煙者の所長についてです。

長期に渡って喫煙をしていると、がん、虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）、慢性閉塞性肺疾患（肺気腫、慢性気管炎）にかかりやすく、喫煙者特有の疾患と呼ばれています。このほか、大動脈瘤のリスクとしてよく知られています。喫ている本人だけでなく、受動喫煙の結果、周囲家族にも健康被害が及ぶことが知られています。



禁煙



## 心臓血管外科★健康講座

糖尿病は生活習慣病の一つです。尿に糖が出るだけの病気ではありません。高血糖によって全身の動脈が傷つき、心筋梗塞や失明、腎不全、足の切断などに至ります。

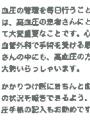


インスリンの販路  
( Wikipediaより )

インスリンは胰臍から手に分かれます。

岩手県立中央病院心臓血管外科では、身近な医療情報を解説した健康講座を県民の皆さんに提供します。第34号は「糖尿病」です。  
糖尿病が生きていくために必要な知識です。体内にはグリコーゲンという形で糖が貯蔵され、不足する時つまり運動、飢餓の時にはいろいろなホルモンの作用で血糖値に供給されます。しかし、細胞の膜に入るために必要なホルモンは一つ、インスリンだけです。  
食事で糖が吸収され血糖値が上がるが、インスリンが細胞から分泌されて細胞に取り込まれ、血糖値は下がります。生まれつきインスリ

心臓血管外科健康講座 第13号 February 22, 2020



心臓血管外科★健康講座

高血圧は、生活習慣病の一つです。血圧の高い方は、毎日、血圧をかり、必要ならば降圧薬を内服します。さて、どちらの腕で血圧を測るべきなのでしょうか。

岩手県立中央病院心臓血管外科では、身近な医療情報を解説した健康講座を県民の皆さんに提供します。第13号は「血圧の左右差」です。  
上に示した表は、「高血圧治療ガイドライン2019」から抜粋したものです。また、左のPDFファイルは、インターネットで検索するすぐに行くことができます。高血圧の詳しいお話をこちらをご覧ください。

血圧の管理は、心臓血管外科の患者さんにおいても大変重要です。血圧を読むときは、腕や手首に血圧計をとどめで測るかということを意識してください。

一般向け「高血圧治療ガイドライン2019」第3章  
インフォメーションを読む

とすぐに見つかります。

心臓血管外科健康講座 第30号 March 13, 2020



## 心臓血管外科★健康講座

脂質異常症は、生活習慣病の一つです。かつては全て「高脂血症」と呼ばれたこともありましたが、HDLコレステロールは低い方が異常ですから、名称変更されました。

岩手県立中央病院心臓血管外科では、身近な医療情報を解説した健康講座を県民の皆さんに提供します。第30号は「脂質異常症」です。

動脈硬化性疾患が心筋梗塞や脳梗塞、閉塞性動脈硬化症を引き起こすことが知られています。動脈硬化性疾患の危険因子としては、年齢、性別、家族歴のほか、糖尿病、高血圧、脂質異常症があります。動脈硬化性疾患を早期発症しないためにも、これらの生活習慣病はきちんと治療した方がいいわけです。

コレステロールはホルモンや細胞膜の構成などにとって重要なものです。コレステロール

ところができると、心筋の血の巡りが悪いことを他の枝が察知し、**新たな動脈（側副血行）**を伸ばします。左前下行枝は、正常でも広範囲の心筋を養い、他の冠動脈の方向に枝を出しており、その枝を発達させて血をもらったり送り届けたりするのです。

しかし、冠動脈が何らかの理由で急につまると、側副血行の仕組みは間に合いません。急性心筋梗塞になり、激しい胸痛を自覚、命が危ない状態となり、重症な場合は突然死します。

ゆっくりとした閉塞は狭くなるにつれ**労作時の胸痛**などの症状があることが多いですが、**急な閉塞は突然発症**します。ですから、日頃から冠動脈の病変を進行させやすい**糖尿病、高血圧、喫煙、脂質異常症**などの生活習慣病をきちんと治療することが重要なのです。

一旦、心筋梗塞が発症した場合、**時間との戦い**となります。一刻も早く治療した方がその後の経過も良好です。心筋梗塞が完成した後では経過は不良となります。強い胸痛を感じたら、すぐに救急車を呼び病院にいきましょう。

また、胸痛という症状は、心筋梗塞以外の病気が原因のこともあります。いずれも命に関わる重大疾患のことが多いですから、軽く考えず、深夜でも救急車を呼びましょう。

岩手県立中央病院心臓血管外科

健康講座 第36号